

福井市深谷町におけるノジコ*Emberiza sulphurata*を対象とした秋季の鳥類標識調査

出口 翔大*

Bird ringing survey targeting Yellow Bunting *Emberiza sulphurata* in Autumn in Fukadani-cho, Fukui City.

Shota DEGUCHI*

(要旨) 福井県嶺北地方における秋のノジコの渡りの中継地の解明を目的として、丹生山地に位置する福井市深谷町にて2019年に標識調査を行った。10月上旬から中旬の午前中に、山間部の砂防堰堤上流に形成されたヨシ原においてかすみ網を1または3枚張り、本種のさえずり音源をスピーカーで流し誘引した。ウグイス7個体およびメジロ1個体が標識されたものの、ノジコは1羽も捕獲されなかった。嶺北地方の他の調査地では同時期に同様の方法でノジコが標識されており、さらに丹生山地においても過去には、ノジコの秋の渡りの時期の記録がある。そのため丹生山地の中でも本調査地はノジコの秋の渡りの中継地として利用されていない可能性が示唆された。

キーワード：福井県嶺北地方、ウグイス、砂防堰堤、ヨシ原、丹生山地

ノジコ*Emberiza sulphurata*はスズメ目ホオジロ科ホオジロ属に分類される渡り鳥で、世界中で日本の本州でのみ繁殖し、フィリピンなどで越冬するとされている世界的希少種である (BirdLife International, 2016)。福井県敦賀市の中池見湿地は、ノジコが秋の渡りの中継地として安定的に利用しており (吉田, 2007) 当地のラムサール条約登録の際に基準の一つとされた (Kanda, 2012)。

標識調査は鳥類を網などで捕獲し、傷つけることなく金属製の足環を付し、放鳥する調査で世界各国で行われている。国内では環境省が(公財)山階鳥類研究所への委託事業として実施している。(山階鳥類研究所, 2009)。標識調査は鳥類の寿命や渡りのルートなどの解明を目的に行われているほか (山階鳥類研究所, 2009)。ノジコなどのように潜行性が高く観察が困難な種の生息確認 (例えば西, 2014; 吉田, 2006) や個体群構造の調査 (千田ほか, 2017) などにも用いられている。福井県内では、秋の渡りの標識調査において中池見湿地以外にも複数箇所、ノジコが捕獲される場所があるものの、その個体数は限定的である (三原 学 私心)。特に嶺北地方は北から南へ向かう秋の渡りの際、中池見湿地の手前にあるため重要な地域と考えられるが、本種の渡りのルートおよび中継地はほとんど明らかになっていない。そこで、福井県嶺北地方におけるノジコの秋の渡りの中継地の解明を目的として、2019年に福井市深谷町でノジコを対象とした標識調査を行った。

調査は嶺北地方西部に連なる丹生山地の一角である

福井市深谷町を流れる深谷川に造成された砂防堰堤の上流部で行った (図1; 36°05'N, 136°09'E)。本調査地は砂防堰堤により深谷川のせき止めにより形成された湿地で、ヨシ*Phragmites australis*およびママコノシリヌグイ*Persicaria senticosus*が優占し、所々に低木のクワ*Morus* sp.や高木のハンノキ*Alnus japonica*やオニグルミ*Juglans ailantifolia*、ネムノキ*Albizia julibrissin*、そしてモウソウチク*Phyllostachys edulis*などが生育していた (図2)。ノジコは繁殖地や渡りの中継地にヨシなどの高茎草地を利用することが知られている (Deguchi *et al.*, 2017; 吉田, 2007)。調査地内に長さの異なる2種類のかすみ網 (DTX: 網目36mm×長さ6m×高さ2.6m, ATX: 網目36mm×長さ12m×高さ2.6m) を合計1または3枚張り、ノジコを誘引するため本種のさえずり音源をポータブルスピーカーで流した (表1)。そのほか、18日、21日にはウグイス*Cettia diphone*、ホオジロ*E. cioides*、アオジ*E. sulphurata*のさえずり音源も使用した。調査時期はノジコが中池見湿地を利用する10月上・中旬とし (吉田, 2007)、雨風の無い穏やかな日を選び、2019年10月6、7、8、15、18、21日の合計6日間行った。調査時間は日によって多少異なるが、おおむね午前6~8時前後とし、30分~1時間に1回の頻度で網の見回りを行った (表1)。鳥類が網にかかった場合は、速やかに網から外し、番号の刻印された環境省の金属製の足環を付し、自然翼長の計測値から雌雄を、頭骨の含気化の進行状況から成鳥・幼鳥を判別し (山階鳥類研究所, 2009)、その場で放鳥した。

*福井市自然史博物館 〒918-8006 福井市足羽上町147

*Fukui City Museum of Natural History, 147 Asuwakami-cho, Fukui City, Fukui 918-8006, Japan

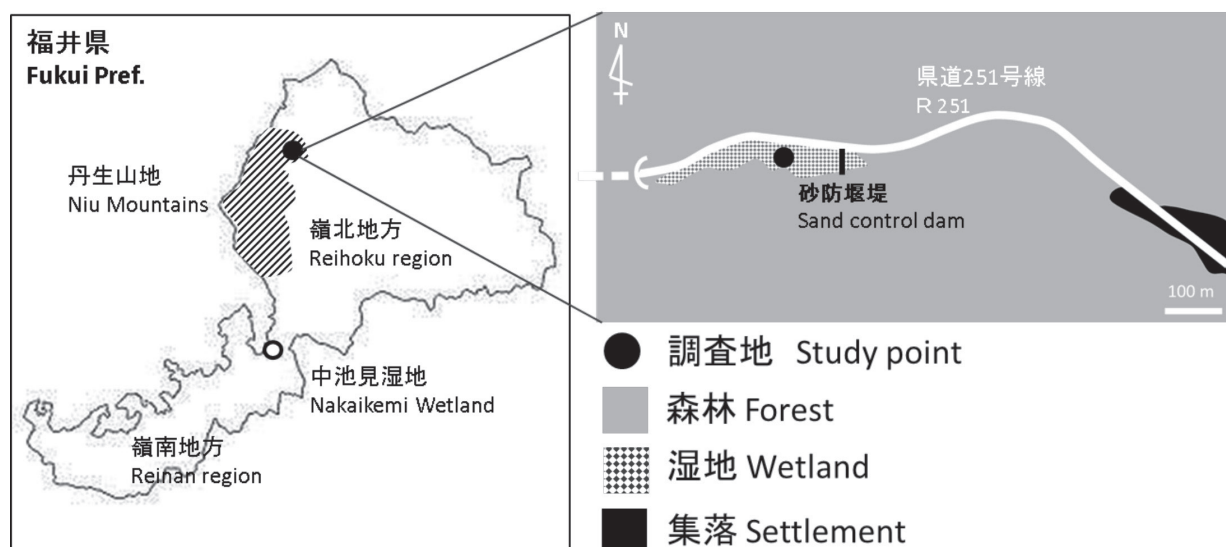


図1. 調査地
Fig.1. Study area

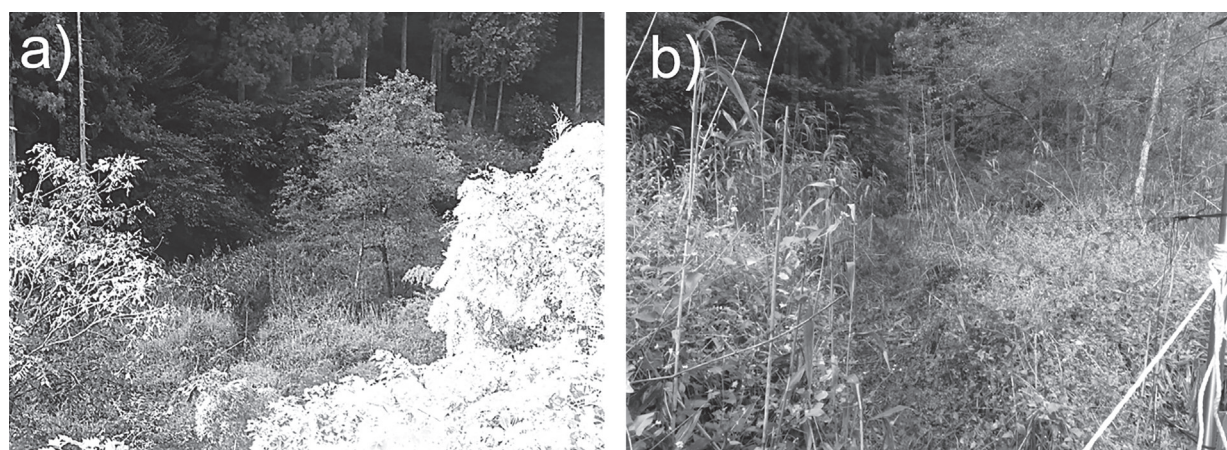


図2. 調査地の環境。a) 全景, b) 網場。
Fig.2. Environment of study area. a) panorama, b) mist net field.

ノジコの捕獲数は0であった。しかしウグイスが10月18日に7個体、メジロが21日に1個体新規に捕獲され(表2)。ウグイスは雄成鳥が1個体、雄幼鳥が4個体、雌幼鳥が2個体であった(表2)。メジロは雌雄不明の幼鳥であった。なお、18日に標識されたウグイス雄の幼鳥は21日にも再捕獲された。したがって本個体は少なくとも4日間は本調査地周辺にいたものと考えられる。

本調査と同時期に、嶺北地方の2地点でも本調査と同様の方法でノジコが捕獲・標識されている。(三原学 私信)。さらに本調査地を含む丹生山地では秋の渡りの時期に本種の観察、標識記録があるため(福井県, 1982; 柳町, 2008)、ノジコは秋の渡りの中継地として丹生山地を利用するが、環境の不適などを理由に本調査地を利用しない可能性がある。その要因としては、他の調査地点では見ることの少ないママコノシリヌグイがヨシの隙間に密生していたこと、足跡や糞からニホンジカ *Cervus nippon* が調査時間外に本調査地に侵入

していると考えられること、交通量の比較的多い県道が接していることなどが考えられる。しかし、本調査からその要因を解明することはできなかった。今後も各地で調査を実施し、嶺北地方におけるノジコの渡りルートおよび中継地の環境に関する知見を蓄積していくことが望まれる。

鳥類標識調査者の三原 学氏には2019年秋季の嶺北地方におけるノジコの標識状況についてご教示いただいた。また、福井市自然史博物館の梅村信哉学芸員には、原稿に対して有益なご指摘をいただいた。本調査地の整備にあたって、同館の金剛晴彦氏にご協力いただいた。ここに記して感謝申し上げる。なお、本調査にかかるかすみ網の使用および鳥類の捕獲は環境省の許可を得て実施した。

表1. 調査方法の概要

DTX とATXはかすみ網の種類を示す（詳細は本文参照）.

Table 1. Summary of survey. DTX and ATX shows types of mist net (DTX: mesh size 36 mm, net length 6 m, net height 2.6 m, ATX: mesh size 36mm, net length 12 m, net height 2.6 m).

調査日 survey date		使用網の種類と枚数 the number of used nets and these net types		調査時間 survey time	音声誘引の音源 sound source of bird song for incentive
		DTX	ATX		
2019年10月	6th	1	0	6:00-8:00	ESU
Octorber, 2019	7th	2	1	6:00-9:00	ESU
	8th	2	1	6:00-7:30	ESU
	15th	2	1	6:30-8:00	ESU
	18th	2	1	6:00-8:00	ESU, CD
	21th	2	1	11:00-12:00	CD, ESP, EC

ESU: ノジコ *Emberiza sulphurata*, CD: ウグイス *Cettia diphone*, ESP: アオジ *E. spodocephala*, EC: ホオジロ *E. cioides*.

表2. 捕獲された鳥類の概要. 括弧内の値は再捕獲された個体数を示す.

Table 2. Summary of captured birds. Value in parentheses indicates the number of recaptured individuals.

	成鳥 Adult		幼鳥 Juvenile			合計 Total
	雄 Male	雌 Female	雄 Male	雌 Female	雌雄不明 Sex unknown	
ウグイス <i>Cettia diphone</i>	1		4(1)	2		7
メジロ <i>Zosterops japonicus</i>					1	1

引用文献

- BirdLife International, 2016, *Emberiza sulphurata*. The IUCN Red List of Threatened Species 2016: e. T22720996A94694052. <http://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2016-3.RLTS.T22720996A94694052.en>. (参照日 2019年12月26日).
- Deguchi, S., Ishihara, Y. and Miguchi, H., 2017, Habitat preferences of breeding Yellow Buntings *Emberiza sulphurata* in hilly rural areas following rice field abandonment in northern Japan. *Bird Conservation International*, **27**, 550-559.
- 福井県, 1982, 福井県の鳥獣. 福井県, 240p.
- Kanda, S., 2012, Ramsar Information Sheet (RIS) Nakaikemi-shicchi. <https://rsis Ramsar.org/RISapp/files/RISrep/JP2057RIS.pdf> (参照日2019年10月2日).
- 西 教生, 2014, 三重県からのオオセッカ *Locustella pryeri* の初標識記録および越冬の可能性. 日本鳥類標識協会誌, **26**, 69-74.
- 千田万里子・仲村 昇・尾崎清明, 2017, 2012~2016年に福島県で行われた繁殖鳥モニタリング調査の結果報告. 山階鳥学雑誌, **48**, 117-129.
- 山階鳥類研究所, 2009, 鳥類標識マニュアル (改訂第11版). 山階鳥類研究所, 96p.
- 柳町邦光, 2008, ふる里彩時季 続 福井の野鳥. 若越印刷, 183p.
- 吉田一朗, 2006, 2002年に福井県中池見湿地で標識されたマキノセンニュウ. *Ciconia*, **11**, 21-23.
- 吉田一朗, 2007, 福井県中池見湿地付近におけるノジコ. *Ciconia*, **12**, 15-17.

Abstract

Bird ringing survey was conducted in reed bed formed in mountain area in Fukadani-cho, Fukui city which is a part of Niu mountains to reveal stop-over site of Yellow bunting's *Emberiza sulphurata* autumn migration in Reihoku region, Fukui prefecture. One or three mist nets were set during the morning from early to middle of Octorber, and sound sources of Yellow bunting's and Japanese bush warbler's song was broadcast by loud speaker to attract Yellow buntings. Seven Japanese bush warblers *Cettia diphone*, a Japanese white-eye *Zosterops japonicas* and none of Yellow bunting were rung. Because Yellow buntings have been recorded in Niu mountains, in autumn to date it was suggested that they do not drop in this study area.

